

製品名: ユビキチン結合酵素 E2 D3 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02737**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 17 kDa; Observed MW: 17 kDa

抗原情報

遺伝子名	UBE2D3
別名	ubiquitin conjugating enzyme E2D 3; UBC4/5; UBCH5C; E2(17)KB3
遺伝子 ID	7323
SwissProt ID	P61077
免疫原	ヒト UBE2D3 の合成ペプチド

背景

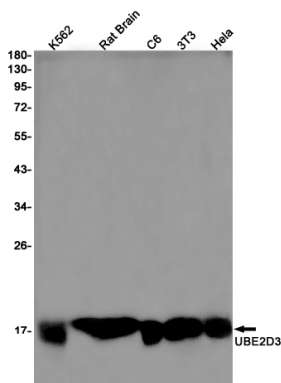
E1 複合体からユビキチンを受け取り、他のタンパク質への共有結合を触媒する。in vitro では、「Lys-11」および「Lys-48」結合ポ

リユビキチン化を触媒する。E2 CDC34 および SCF(FBXW11) E3 リガーゼ複合体と連携して NFKBIA のポリユビキチン化を促進し、その後のプロテアソーム分解に繋げる。イニシエーター E2 として機能し、リン酸化 NFKBIA 標的の「Lys-21」および/または「Lys-22」部位をモノユビキチンでプライミングする。その後、CDC34 によってユビキチン鎖伸長が行われ、UBE2D3 によってプライミングされた NFKBIA 結合ユビキチンからユビキチン鎖が構築される。また、RNF8 と連携して PCNA のプライミングにおいてもイニシエーター E2 として機能する。PCNA のモノユビキチン化とそれに続くポリユビキチン化は、S 期に紫外線や化学物質による DNA 損傷を受けた後に活性化される DNA 損傷耐性 (DDT) 経路において必須のプロセスです。BRCA1/BARD1 E3 リガーゼ複合体と結合し、電離放射線による DNA 損傷部位でユビキチン化を行い、DNA 修復を促進します。ユビキチン化は DAPK3 を標的とし、核内での前骨髄球性白血病タンパク質核小体 (PML-NB) の形成に関与します。MDM2 および TOPORS E3 リガーゼと連携して、p53/TP53 のユビキチン化を行います。NRDP1 を介した ERBB3 および BRUCE のユビキチン化と分解を促進し、アポトーシスを誘発します。CBL E3 リガーゼと連携して、EGFR を標的とし、細胞膜におけるポリユビキチン化、ならびにエンドソームへの内部移行および輸送を促進します。また、STUB1 E3 品質管理 E3 リガーゼと連携して、折り畳まれていないタンパク質をユビキチン化し、その即時的な破壊を触媒します。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



ユビキチン結合酵素 E2 D3 抗体を使用した、K562、ラット脳、C6、3T3、Hela 溶解物中の UBE2D3 のウエスタン ブロット分析。